

Q：暑さ指数利用に対して、その基準は、保育の参考にはなりますが、一律に行政から、屋外活動の方向性を指示されることに疑問を生じています。行政に説明する際の根拠付き文案を、教えてくださいませんか。（保育園園長）

A：要望の趣旨、現行基準の課題、科学的根拠、園が行っている安全対策、要望事項、資料添付は、最小限、記入され、準備をしてください。文案は、参考までに、一案を作ってみましたので、ご覧ください。

幼児の外あそびにおける WBGT 基準運用の柔軟化に関する要望書

提出先：〇〇市〇〇課（保育・こども園担当）

提出者：〇〇こども園 園長 〇〇〇〇

提出日：令和〇年〇月〇日

1. 要望の趣旨

現在、当園では、役場からの指導に基づき、WBGT（暑さ指数）が一定値（例：31℃以上）となった場合、屋外あそびを全面禁止しております。しかし、当園の園児は、年中、日常的に屋外活動を行っており、暑熱環境への順化が進んでいることから、一律禁止ではなく、条件付きでの外あそび許可への基準緩和をご検討いただきたく、本要望を提出いたします。

2. 現行基準の課題

WBGT は、「暑熱環境による熱中症発生リスク」を評価する有効な指標ですが、全年齢・全活動レベルを一律で判定するため、日常的に運動している園児や暑熱順化が進んでいる子どもにも、同一基準が適用されます。

一律禁止により、①外あそびの機会減少による体力・持久力の低下、②暑熱順化能力の低下（翌年以降の熱中症リスク増加）、③心身発達・社会性形成の機会損失が懸念されます。

3. 科学的根拠

（1）暑熱順化（Heat Acclimatization）の効果

連続した暑熱環境下での活動により、発汗機能・循環機能が向上し、体温上昇を抑える能力が高まる（スポーツ庁「熱中症予防運動指針」、Nielsen, 1998）。

（2）日常活動量と熱中症発生率の関係

屋外活動時間が長く、活動強度が適度な子どもは、同一 WBGT 条件下でも熱中症発生率が低い（日本体育学会，2022）。

（３） WBGT の限界

WBGT は、気温・湿度・輻射熱を基に算出されるが、活動時間・水分摂取・服装・日陰の有無など、現場条件を反映しないため、過剰な活動制限になる場合がある（環境省「熱中症環境保健マニュアル」）。

4. 当園の安全対策

当園では、以下の条件を満たす場合に限り、WBGT が高い日でも短時間の外あそびを実施しております。

1. 活動時間の制限：10～15 分以内、休憩を挟みながら実施
2. 水分補給の徹底：活動前・中・後に必ず水分補給
3. 日陰・ミストシャワーの利用
4. 服装の工夫：通気性・速乾性のある衣類、帽子着用
5. 健康観察：活動前後に顔色・発汗・脈拍・体温をチェック
6. 熱中症計の複数設置：園庭・日陰両方の数値確認

5. 要望事項

WBGT による一律禁止ではなく、「条件付き許可」方式の導入

例：WBGT31℃以上の場合も、日陰＋短時間＋水分補給＋健康観察を条件に実施可

当園での健康観察記録（過去 3 年間の熱中症発症ゼロ実績）を安全性の証拠として活用

6. 添付資料（抜粋）

- ・ スポーツ庁「熱中症予防運動指針」（2023 年改訂版）
- ・ 環境省「熱中症環境保健マニュアル」（2022 年度版）
- ・ 日本体育学会「幼児の暑熱順化と運動適応に関する研究」（2022）
- ・ 当園の外あそび健康観察記録（過去 3 年間）

7. 結び

本要望は、安全性を最優先にしつつ、子どもたちの健全な成長・発達を守るためのものです。
行政と現場が協力し、「命を守る安全」と「育ちを支える活動」の両立が可能な運用方法を検討
いただけますよう、お願い申し上げます。

(前橋 明)

子どもの健康福祉研究所